

私のディベート講座

北海道支部事務局長 古西峰幸

11月19日（土）・20日（日）、北海道札幌の生涯学習センター「ちえりあ」において「教室ディベートフォーラムin札幌」が開催される。

このフォーラムの前座、オプション・プログラムとして、ディベート入門講座を開催する。講座は以下の3つ。

- 1) 英語ディベート入門講座
講師：佐々木智之（北海道支部長）
- 2) ねこにもできるディベート入門講座
講師：岡山洋一（北海道副支部長）
- 3) ディベート入門講座 ー小学校編ー
講師：古西峰幸（北海道支部事務局長）

支部長の佐々木は、中学校教員時にディベート甲子園を引率した経験を持つ。英語のディベートの講座については、以前札幌で開催していたプロジェクトキャッツで行っていた講座がベースになる。

副支部長の岡山は言うまでもなく、北海道の、いや日本のディベートを牽引する人物である。そしてこの「ねこにも〜」のテキストは、今回のディベート甲子園でも学生達の交流会の商品として大人気であった。

では、私の講座はというと、構想1年、準備？の講座である。

構想1年を少し解説する。

今年度から、小学校の教科書は改定され、その関係で私は、昨年度10月頃に学校で使う教科書の検討をしていた。その中で、小学5年生の教科書に「討論会をしよう」という単元が確認した。簡単な予備調査をすると、小学校5年・6年の国語の各社の教科書に、「討論」を単元とする内容が盛り込まれていた。

現在、担任をしている子ども達は小学5年生。この単元の準備・実践が、ディベートの発展に少しでも役に立てば。この想いで本講座を担当しようと考えた。

具体的には、この原稿を書いている今は準備の最中である。したがって、以下、紙面が許す限り、そのアウトラインを記す。

論題「地域に自動販売機を設置すべきである 是か非か」

この論題を選択したのは、漁師と教師しか住まない私の勤務地には商店はおろか自動販売機すらない。これを使わない手はない。この論題でメリットデメリットを考えると準備を進めている。話をしたときのこの論題の子ども達の反応も良かったからでもある。

メリット 飲み物の選択の幅の増加
金銭教育

デメリット ゴミ問題

お小遣いの無駄遣い

で、45分×3時間の内容とし、フローシートをかく、ジャッジする以外の全てを一通り学習するという内容である（この単元は6時間扱い。マイクロディベートを2時間 {中学校フォーマット} でいれ、それぞれの余った時間でフローの取り方・ジャッジの話をいれ、まとめの時間1時間で構成しようと考えている）。

現在の課題は、小学生に反駁をどのように教えるかである。

なお、講座当日は本実践を基に、「小学校内に自動販売機を設置すべきである 是か非か」に改題し、40分の模擬授業、10分の説明・シェアリング、10分の休憩を3時間分と構想している。

池内氏や佐久間氏の書籍を活用しながら準備を進めているが、小学校教員が一人しかない小中併置校。雑務に追われている。しかも、6時間の自動車移動後の講座ということで、はたして当日の講座はどうなることかと、自分でもこちらのほうばかり気にかけて準備が遅れている。

（稚内市立東浦小学校教諭）